PORSCHE



911 Spirit 70

ICONS OF COOL

PORSCHE



The vehicle models featured in this publication present the equipment for Germany. They also contain, for example, individual equipment that is not part of the standard scope of delivery and is only available at extra cost. The availability of models and equipment may vary from one country to another due to local restrictions and regulations. For information on the precise equipment scope, please consult your Porsche Centre/dealer or your importer. The 911 Targa 4S Heritage Design Edition and the 911 Sport Classic are no longer available for purchase. All information regarding construction, features, design, performance, dimensions, weight, fuel consumption and running costs is correct to the best of our knowledge at the time of going to print [04/2025]. Porsche reserves the right to alter design specifications, equipment and delivery scopes. Colours may differ from those illustrated. Errors and omissions excepted. For the disclaimer in every language, please refer to www.porsche.com/disclaimer

Foreword

親愛なる911ファンの皆様へ

Coolness – 特に2000年代以前によく使われていたこの言葉は、現在、本格的な再評価の時代を迎えています。いま、多くの人がこれまで以上に、落ち着きや静けさ、美意識やスタイルへの純粋な憧れを求めています。とりわけファッションの世界では、Cool lookこそが誰もが目指すものとなっています。過去の要素が再び脚光を浴び、当時よりも年月を経た今のほうが、よりクールに感じられる、そんな現象が起きています。この流れは、PorscheのHeritage Design Strategyにもつながります。何かがクールであるためには、時代を超えて価値があること、そして自分のライフスタイルを個性的な1台で表現できることが必要です。そのために欠かせないのが、力強く、個性を備えたデザインなのです。

Style Porscheでは、ブランドのヘリテージを大切にしながらも、時代の流れに沿った新たなスタイルの創出に日々取り組んでいます。私たちが新しいモデルのスケッチに取りかかるとき、常に胸にあるのは「過去なくして未来なし」という言葉です。すべての新型モデルは、ブランドが培ってきた豊かな歴史に根ざしながらも、モダンかつ未来志向のデザインを備えています。Heritage Design Strategyは、その思想を忠実に受け継ぎながら、お客さまにフォーカスしたアプローチで、過去の名作を現代的に解釈・再構築する試みです。1950～80年代にかけての、Porscheの象徴的なデザイン、カラー、素材を単に復刻するのではなく、細部にまでこだわって再構成し、911の持つタイムレスなモダンさを際立たせ、調和させるように仕上げています。それぞれの時代を象徴するPorscheの歴史は、限定モデルのコレクターズ アイテムとして表現されます。さらに、多くの911モデル向けに展開されるオプショナル パッケージによって、Heritage Designの世界観を広げています。

2020年の911 Targa 4S Heritage Design Edition、2022年の911 Sport Classicに続き、今回の新型911 Spirit 70(タイプ992.2)でも、成功の物語は続くと私は確信しています。

このモデルのために特別に開発された新色オリーブ ネオと、新たに解釈されたブラックのセーフティ ストライプ（これまではPorsche通にしか知られていなかった）をボディに纏い、ルーフにまで続くそのデザインは、1970年代のライフ スタイルへと私たちを誘います。そしてインテリアに現れるPasha（パシャ）パターンを見ると、ラジオをつけていなくてもYou Make Me FeelやBorn to Be Aliveといった曲が自然と頭の中に流れ出します。自由、人生の喜び、そして世界中のディスコで踊り明かした夜。そんな情景が自然と思い浮かびます。この時代が形づくった感情は、今なお私たちの記憶に残り、あるいは多くの人が魅了しながら語り継がれています。デザインにおいては、カラーと素材の選定も非常に重要です。Pasha パターンは、1977年に南フランスで発表された928のために開発された、Porsche オリジナルのデザインです。私たちデザイナーにとっては、ファッションの世界から着想を得たペピータよりも象徴的な意味を持つ模様です。ブラックとオリーブ ネオの配色で表現されたPashaは、当時と同様、今なお強く意見が分かれる個性的な存在なのかもしれません。これこそが、新しいテーマに挑戦したり、既存のアイデアを再解釈したりする過程の一部となるのです。私は、このトレンドが、今後より持続可能なかたちで発展していくと確信しています。最初は違和感があったり、不釣り合いに見えたりする要素こそが、デザインを長期的な成功へと導くことになるのです。

この思想は、Heritage Designモデルに共通しており、Porsche Exclusive Manufakturのディテールが持つ職人技と細部へのこだわりによって体現されています。911 Spirit 70のフロント ボンネットには、再びHeritage Designクレストがあしらわれています。このクレストは、1963年に登場した初代911（901）に採用された、最初期のPorscheクレストをベースにしたものです。

そしてここにも、わずかながら意図的に違和感を生み出す要素があります。というのも、このクレストは1970年当時のものでも、現行のエンブレムでもありません。あえてその中間をつなぐ要素としてデザインされたものであり、それを身につけることが許されているのは、Heritage Designモデルだけなのです。ゴールド メッキ仕上げのモデルバッジについても同様です。本来ならばシリーズとしての統一感を重んじるところですが、この車両に関してはデザイン チームとしてのこだわりを貫き、3番目のコレクターズ モデルではご希望のお客様に向けてブラック（サテン グロス）のモデルバッジもご用意しています。お客さまがどのカラースキームを選ばれるにしても、Heritage Design Strategyの根底にあるテーマは一貫しています。それはまさに、本当の Icons of Cool 。911 Spirit 70のステアリングを握るお客様自身が、そう形容されるにふさわしい存在なのです。

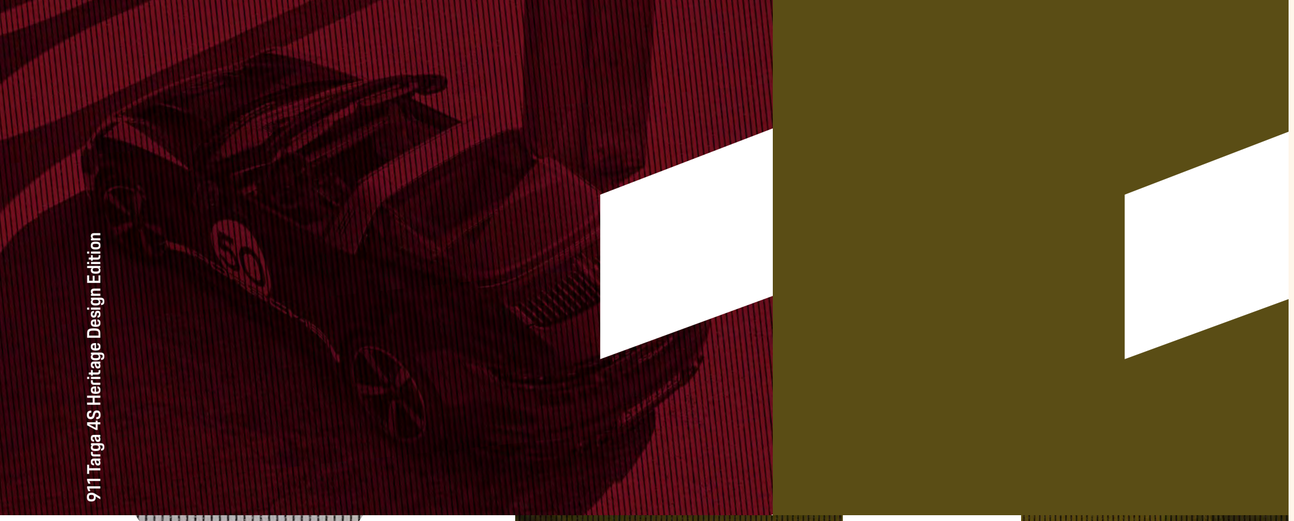
それでは、どうぞドライブをお楽しみください。

心を込めて

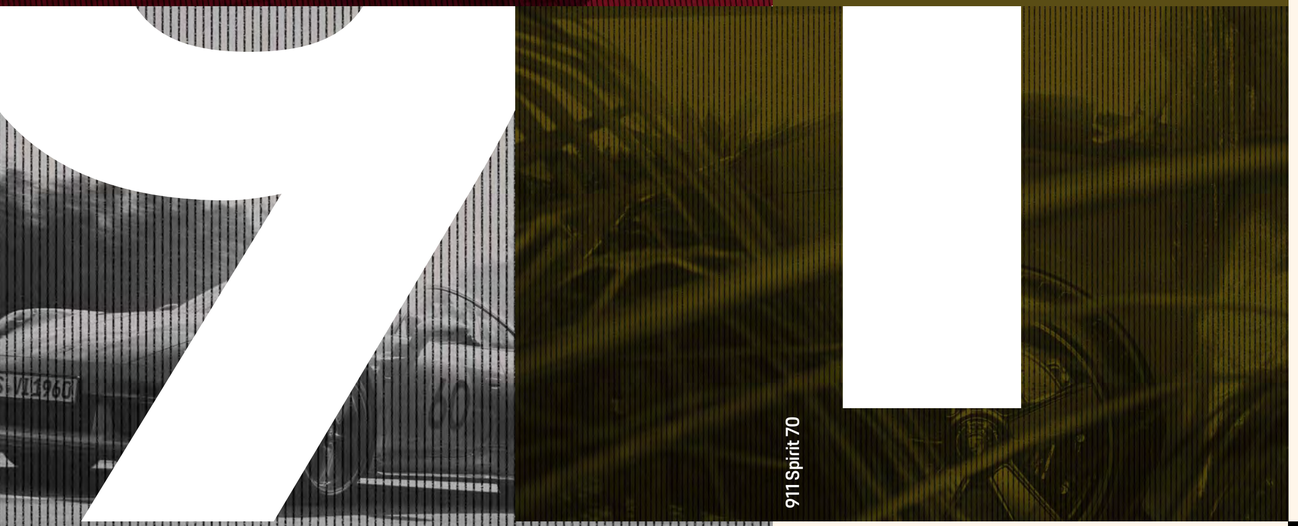
ミヒャエル・マウアー



2004年よりPorscheのデザイン部門を率いるミヒャエル・マウアーは、1982年から1986年にかけて、プフォルツハイム大学において自動車デザインを学びました。現行モデルに加え、Porsche 918 Spyderシリーズや、最新の電動スポーツカーTaycanなども、彼の指揮のもとで生み出されています。



911 Targa 4S Heritage Design Edition



911 Sport Classic

911 Spirit 70

Every era deserves its icon.

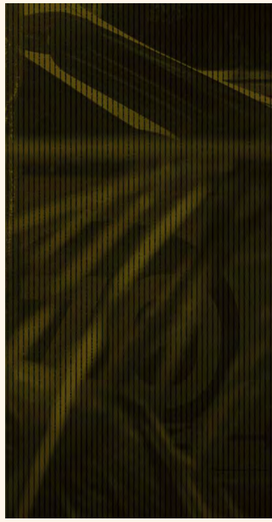
特別な瞬間というものは、確かに存在します。インスピレーションと高揚感に満ちたひととき。世界が止まり、何か意義のあるものが生まれるのを見守っているように感じられる瞬間です。

多くの人々の心に響くメロディーや楽曲、世代に影響を与える映画、永遠に記憶されるスポーツにおける勝利。それらに共通しているのは、世界を変える特別な何かがそこに生まれたという事実です。

Porscheの歴史にも、何か大きなものが生まれつつあると感じられた瞬間があります。そのひとつが、911の誕生です。1963年のフランクフルト モーターショーで初公開された911は、スポーツ カーの世界に新たな時代の到来を告げました。それ以来、911は数多くのスポーツ カー愛好家をPorscheファンへと変えてきました。

Icons of Coolでは、過去の時代のエネルギーを現代に甦らせています。911 Targa 4S Heritage Design Editionは1950年代での雰囲気を表現し、911 Sport Classicでは1960年代を象徴するスタイルを称えました。そして今回、911 Spirit 70では、1970年代の独特な雰囲気を再び現代へと届けます。

最新のテクノロジーを搭載し、歴史的なデザイン要素から着想を得て生み出されたこの少数限定モデルは、新たな出発、変化、自由を象徴する1970年代を体現しています。その車両コンセプトは、その時代そのものと同じように、アイコニックな存在です。





08
THE BIRTH OF ICONS
The wild 70s

30
SHAPING ICONS
From the idea to the experience

72
TIMELESS ICON
Porsche Design Timepieces

78
ICONS FOR YOUR 911
Heritage Design Package Pasha

18
ICONIC FEELINGS
Porsche in the 70s

36
AN ICON OF COOL
911 Spirit 70

76
ICONIC STYLE
Porsche Lifestyle

86
ICONS CONTINUED
A look ahead to the 80s



Sylvester Stallone



ABBA



The Jackson 5







Studio 54

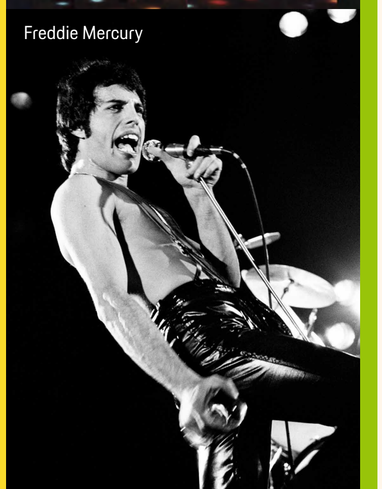


Karen Lynn Gorney and John Travolta



Sylvester





Freddie Mercury

アイコニック、エキセントリック、唯一無二。 1970年代は、創造性と多様性において他に並ぶもののない特別な10年でした。自由を愛し、人生を気ままに楽しむ姿勢に満ちた、刺激と発見にあふれる旅。

社会の伝統的な価値観は再解釈され、ファッションは常に新たな境地を切り拓いていきました。厚底のプラットフォームシューズ、フレア パンツ、サイケデリックなパターン、人々は実験的に自分らしさを追求し、パーソナル スタイルを再定義していきました。

それは、思いきり楽しみ、新しいことに挑戦するための時代。音楽も、ファッションも、テレビも1970年代は、あらゆる境界を越えていきました。

世界はディスコ フィーバーに包まれた

70年代には「Peace out」と言って体制に背を向け、シルヴェスターのレコードをかけ、一番派手なスパンコール付きのフレア パンツに、もっとも大胆な柄のシャツを着て、次のディスコはどこ？と聞くような時代でした。

なぜなら、まさにそこが音楽が鳴り響いていた場所だったからです。新しい時代は、今なお私たちを魅了する曲やメロディーとともに幕を開けました。ABBAのポップ アンセム、デイヴィッド・ボーイのビート、フレディ・マーキュリーの声。70年代には、あらゆる音楽の嗜好に応えるものがありました。クラブ カルチャーもこの時期に生まれました。ニューヨークの伝説的なStudio 54のような活気ある場所が中心となり、終わらない夜と自由な空気が広がっていきました。テレビと映画の世界でも、新たな時代が始まりました。ゴッドファーザー、ロッキー、スター ウォーズなど、映像表現の限界を押し広げた作品が誕生し、私たちをかつてないほどスクリーンに引き込んでいったのです。

The wild 70s.

The unfettered decade.

70年代はディスコ ボールやレーザー ソードだけの時代ではありませんでした。それは、大きな変化と課題に満ちた時代でもあります。ベトナム戦争は終結を迎えましたが、社会に新たな混乱をもたらしました。石油危機は、化石燃料への依存という現実を突きつけました。経済的には不安定な時代でありながらも、変化と進歩が同時に進んでいきました。



Germaine Greer



Bianca Jagger



この10年は、セクシュアル レボリューションが大きく前進した時代でした。人々は自身のセクシュアリティをより自由に表現し始め、性に関する話題にまとわりつくタブーを打ち破るとともに、多様な性的指向への理解と受容を求めて声を上げるようになったのです。



Gloria Steinem



変化の始まり

フェミニズムも広がりを見せ、女性たちの運動は無視できない社会的な力となりました。彼女たちは自らの権利のために声を上げ、壁を打ち破り、次の世代へとつながる新たな価値観と基準を築いていきました。

この10年、人々は自身を見つめ直し、社会の常識や価値観を見直すきっかけにもなりました。それは、変化の時代であり、自己表現の時代であり、新しい挑戦の時代でした。人々に影響を与え、踊らせ、考えさせ、息を呑ませ、めまいがするような時を刻んでいきました。そして、70年代という時代は、永遠に忘れられない記憶として残っていくのでした。



Marsha P. Johnson



MAKE ME FEEL

MIGHTY REAL:

The soundtrack of a new era.

70年代は、音楽史上最もエキサイティングな時代のひとつでした。音楽は聴くものであるだけでなく、感じるものでもありました。音楽はひとつの世代の夢と欲望を映し出す表現手段となり、社会や文化を根本から変革していきました。その変革の象徴となったのが、伝説のディスコ文化発祥の地、Studio 54です。マンハッタンに1977年にオープンしたこのナイトクラブは、華やかさと過剰さ、そして快楽主義の象徴となりました。

毎晩、セレブリティやファッション アイコン、アーティスト、音楽ファン、パーティー好きの人々がこの場所に集いました。Studio 54はディスコ文化に正統性を与え、社会的、文化的意義を新たなステージへ押し上げました。Studio 54は単なるディスコではなく、一つのライフスタイルだったのです。このムーブメントを支えたのは、70年代を代表するバンドやアーティストたちでした。そのパイオニアのひとりが、シルヴェスター・ジェームス Jr（通称シルヴェスター）です。彼は、圧倒的なエネルギーと伝説的な楽曲You Make Me Feel (Mighty Rea) でフロアを沸かせました。眩いばかりのステージパフォーマンスと華麗な衣装、そして力強いファルセット ボイスは、彼の存在感をさらに際立たせました。躍動感あふれるビートと、音楽に身を委ねずにはいられない魔法のようなグルーヴは、70年代のムードを完璧に体現していました。それはまさに、色彩、熱気、多様な音楽すべてが弾けた時代。70年代は、音楽がそれ以上の存在になり得ることを私たちに教えてくれました。それは感情であり、気分であり、そして個性を表す手段でもあるのです。ファンク、ソウル、そしてヒップホップ、そのすべてがこの時代に芽吹き、それぞれが1970年代に自分たちの居場所と声を見つけました。ジェームス・ブラウンやマービン・ゲイといったアイコンたちは、重低音と情熱的な歌詞で、その時代のサウンドトラックをつくりあげたのです。


Marvin Gaye




Sylvester


Grandmaster Flash


Pink Floyd

ノンストップで鳴り響く音楽

進化したのは音楽そのものだけではありません。音楽の聴き方や体験方法も、まったく新しい形へと生まれ変わったのです。DJやターンテーブリズムが音楽シーンに欠かせない要素となり、DJ クール・ハークやグランドマスター・フラッシュは、そのムーブメントのパイオニアとなりました。彼らは単に曲をかけるだけでなく、革新的な手法で楽曲を再構築し、これまでにないサウンドとリズムを生み出しました。

レコードをカットし、ミックスし、スクラッチすることで、全く新しいアートフォームを築き上げ、夜の世界を支配する指揮者となったのです。ワイルドで、自由で、勇敢で、そして本物。70年代は、まさに音楽の変革と進化の象徴でした。この時代に生まれたサウンドトラックは、世代全体の鼓動を躍らせ、多くの新たな音楽ジャンルの土台を築きました。その不滅のスピリットは、今もビートに息づき、世界中の人々を、あの日と変わらぬ熱狂で魅了し続けています。


James Brown

1960年代がパステル トーンでそっと語りかけるようだったのに対し、1970年代のカラー パレットは一気に音量を上げたような存在感を放っていました。なかでも流行したのが、ハーベスト ゴールド、アボカド グリーン、そしてビビッドなオレンジ。これらの色は、新しいライフスタイルへの意識を体現する、生き生きとした表現となっていきます。家の中にディスコを、ワードローブにバイブスを、キッチンにポップをもたらしてくれました。音楽と同様、70年代の色彩もまた、大胆で、クリエイティブで、独自のオリジナリティにあふれていました。

古い家族写真をめくっても、昔の映画やテレビ番組を見ても、真っ先に目に飛び込んでくるのは、70年代の鮮やかな色たち。ありふれた日用品ですら、生き生きとしたアート作品に変貌を遂げていました。催眠術のように揺れるラバ ランプ、きらめくビーズ カーテン、サイケデリック なウォール ポスター、そしてワイルドな柄のカーペット。あらゆるものが、色彩を主役にしていたのです。

それは世界をより鮮やかに、よりカラフルに、そしてより大きな声で彩りました。私たちはカラフルである、私たちは大胆である、そして世界を変える準備ができているというメッセージを、はっきりと放っていたのです。

Only the colours were louder than the music.



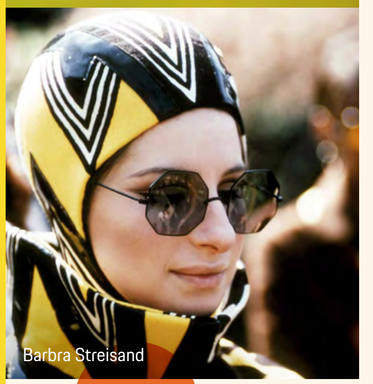


Muhammad Ali



Cher

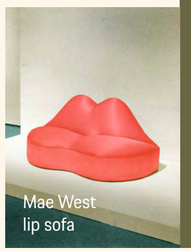




Barbra Streisand







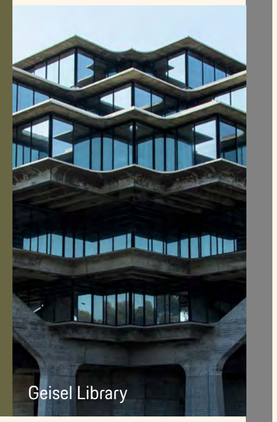
Mae West
lip sofa



Centre Georges
Pompidou



Paternoster Square



Geisel Library

Not just buildings, but statements.



Boston City Hall

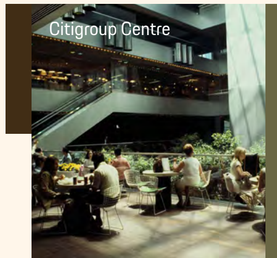






House, designed by architects
Bronek Katz & Reginald Vaughn

A manifestation of ‘living it up’ in architecture.



Citigroup Centre



A decade in top form.

この時代の文化的、社会的変化は、コンクリートまでもファッショナブルな存在に変えました。ブルータリズム、デコンストラクティヴィズム、そんな力強い言葉たちが、70年代にその真価を発揮したのです。ブルータリズムは、特にコンクリートといった無加工の素材への愛着、そしてモニュメンタルでブロック状のフォルムを特徴とし、パリのポンピドゥ センターやボストンのボストン シティ ホイール、サンディエゴのガイゼル図書館といった、迫力ある建築を生み出しました。一方で、このスタイルには洗練された一面もありました。ジョン・ロートナー設計のエルロッド ハウスやシーツ–ゴールドスティン レジデンスなど、ラグジュアリーな住宅建築では、コンクリートを用いたシックな構造と革新的な空間設計が際立っていました。まさにコンクリートのクチュールと呼ぶにふさわしい存在感です。

同じ頃、東側諸国ではイースタン モダニズムが建築の潮流を形成していました。モダンかつ機能的なデザイン アプローチに、地域特有の美学や伝統が融合したスタイルです。

しかし、革新的だったのは建物だけではありません。70年代の家具デザインもまた、この時代ならではの自由奔放な美学を体現していました。フォルムは、抽象的で自由奔放。ソファも、チェアも、テーブル ランプでさえも、70年代は誰もがクリエイティブな感性を大胆に解き放つことができた時代だったのです。唇の形をした有名なボッカ ソファのように、ポップアートは世界を魅了し、日常的なオブジェも文化を象徴する大胆な存在に変わりました。スタイルとユーモアセンスを同時に持ち合わせていることを示す、完璧なアイテムだったのです。

常識は破るためにある

建築のモジュール原理とともに、デコンストラクティヴィズムという建築スタイルも、あらゆる既成概念への反逆を掲げました。新たな角度や視点を求め、野心的な実験が繰り広げられたのです。構造は分解され、ひっくり返され、そして再構築されました。対称性や秩序。そんなものは時代遅れで退屈なもの。70年代は、そんな古臭い考えに、ただ苦笑いするだけでした。

この時代のデザイン ムーブメントは、どれほど過激であっても、ひとつの共通点を持っていました。それは、想像力を自由に解き放つ表現のかたちだったということ。常識を打ち破り、大胆なデザインによって新たな創造の領域へと踏み出そうとする欲求の現れでした。そしてこの精神は、50年経った今も、カルチャーのトレンドセッターであり、インスピレーションの源であり続けています。



An ambitious company.

Porsche in the 70s.

1970年代は、世界にとってもPorscheにとっても、変革と挑戦、そして進歩の時代でした。輝かしいレースでの成功、革命的な技術革新、そして戦略的な方向転換。この10年は、Porscheにとって多くの意味で画期的なものとなったのです。

新たな時代。それはPorscheにとっても同じだった

最大の変革は、自らの中から始まる。1972年8月1日、Porscheは有限会社（KG）から株式会社（AG）へと組織変更し、新たな時代の幕を開けました。これは、企業戦略においても大きな転換点でした。

それまでは、主に家族による少人数経営が行われており、迅速な意思決定やパーソナルな経営スタイルを実現していたものの、その反面、家族は大きな財政的負担を抱えていました。会社の損失に対して個人で責任を負わねばならず、資金調達の選択肢も限られていたのです。

株式化とともに、新たな経営陣が誕生し、エルンスト・フールマンがその先頭に立ちました。これにより、Porscheは新たな資金源への道を開き、財務面での柔軟性を獲得。生産能力の拡大、新技術への投資、そして1970年代の経済危機の中における存在感の確立へとつながったのです。

この再編は、企業戦略においても大きな転換を意味していました。今後は、オペレーション マネジメントのポジションに家族を起用しない方針が打ち出されたのです。Porscheの伝統とビジョンを体現していたフェリー・ポルシェは、監査役会の議長に就任し、経営のバトンを新たな世代へと託しました。

戦略の舵を切ったとはいえ、1970年代初頭には、なお家族の影響を色濃く反映した決定も多く見られました。その代表例が、1972年に登場した高性能スポーツカー、911 Carrera RS 2.7です。当時の911シリーズの頂点に位置づけられたモデルでした。

新たなリーダーシップのもと、Porscheは変革への挑戦を一貫して進めていきます。技術面では、特にトランス アクスル構造の導入と、それに伴うモダンなボディ デザインによって、新たな時代が幕を開けました。この時代の中で生まれた、特に美しい成果のひとつが、ラグジュアリーなスポーツカーである928の誕生でした。フェリー・ポルシェ自身、この変化を“自らの哲学からの離脱”と捉え、もはや自身のサインが残るものではないと語ってはいたものの、その成功は揺るぎないものでした。4気筒、6気筒、8気筒の幅広いラインナップを基盤に、Porscheの販売台数は着実に成長を遂げていったのです。



「変わり続けてきたからこそ、Porscheは変わらずPorscheであり続けることができたのです」 *Porsche CEO オリバー・ブルーメ*



Porsche 911 Carrera RS 2.7
（リア スポイラーの無い、スペシャル バージョン）



1970年 ル・マン



開発においても、先を見据える姿勢は最優先事項でした。それを象徴するのが、研究分野、設計、試験、開発部門を、ツッフェンハウゼン本社工場から新たに設立されたヴァイザッハ開発センターへ移転したことです。このヴァイザッハはシンクタンクとも称され、ツッフェンハウゼンの名高い第1工場と並び、Porscheの本拠地となりました。ここでは、Porscheのクリエイティブな力が育まれ、才能ある人材たちが次世代の車両設計と開発に理想的な環境を手にすることになったのです。

路面に焼き付くラバーと共にPorscheの歴史は刻まれる

Porscheにとって70年代は、変革と激動の時代であるだけでなく、大いなるビジョンの時代でもありました。FordやFerrariと肩を並べ、モータースポーツ界における真の強豪となること、それがPorscheの目指す未来だったのです。1972年までにフェルディナンド・ピエヒによってレーシング部門が本格的にプロフェッショナル化され、Porscheは限界を超え、不可能を可能にする挑戦へと踏み出しました。もはや見た目が良く、速く走るクルマを作るだけでは満足できない。Porscheは、歴史に名を刻むクルマを作ろうとしていたのです。

ル・マン24時間、Can-Am、あるいはシチリア島で開催されたタルガフローリオの難易度の高いコースであれ、Porscheはビジョンを現実に変え、数々の栄光と伝説的な記録を打ち立てました。1970年、ル・マン24時間レースにおいて917がPorscheにとって始めて総合優勝を飾ったことも、その象徴的な出来事のひとつです。この勝利によって、Porscheはついにモータースポーツ界の頂点に立ったのです。

そして、チェッカー フラッグがはためくその光景は、これまで以上に多くのPorscheファンを歓喜させることになるのでした。その話は、また後ほど。



世界のサーキットで時代を先取りしていたPorscheは、ロードカーの世界でも新たな時代を切り開こうとしていました。

1963年、初代911（当初の名称は901）が世界に発表されて以来、その進化は文字通り加速度的に進んでいきます。純粋なレーシングマシンである911 R、進化型の911 S、さらに競技仕様の2.5（ST）、Porsche Carrera RS、そしてモータースポーツで成功を収めた911 Carrera RSRへと至るまで、それぞれの最適化が、パフォーマンスにおける新たな進化の段階を刻んできました。

それから10年後の1973年、ついにその時が訪れました。数々の改良と8万台以上の販売実績を経て、次世代の911がスタートラインに立ったのは、伝説となる911 Gシリーズ。再びスポーツカーの世界を永遠に変える準備が整ったのです。

60年代から70年代へ、911は見た目も技術も大きな進化を遂げました。技術面では、エンジン排気量が2.7リッターに拡大されたことが重要なステップとなりました。また、安全性と快適性への意識が高まる中、新型911はこれに応え、アメリカの新しい規制に対応した新設計の衝撃吸収バンパーが採用されました。このデザインは、1989年に964世代が登場するまで911のアイコンとなります。さらに、三点式シート ベルトやヘッドレスト一体型シートも標準装備となり、乗員保護性能が大幅に向上しました。もうひとつの新たな特徴として、テール ライトの間に設けられたレッド パネルがあります。大胆なPORSCHEワードマークが配され、リア ビューにさらなるスポーティさを加えていました。

外観は、マット ブラックまたはボディ同色で仕上げられた各種パーツが組み合わされ、Gシリーズならではの個性が完成。1982年にはカブリオレも追加され、当時の世界最速カブリオレとして話題をさらいました。

Turboの力で危機を乗り越える

Gシリーズの導入を彩ったのは、技術革新やスタイルの進化だけではありませんでした。1974年のオイル ショックは、燃料価格の高騰とそれに伴う販売台数の減少を引き起こし、Porscheに暗い影を落としました。それ以前の20年間が数々の大きな成功に彩られていたことを考えると、その影響はなおさら深刻でした。

この激動の時代のさなか、Porscheは大きな勇気をもって、モータースポーツで培った新技術を市販車に導入しました。それが、911 Turbo。930 Turboとしても知られるモデルです。大胆な一歩でした。結果として、それは911の歴史、Porscheというブランド、さらには自動車業界全体にとっても、重要なマイルストーンとなりました。Turboは、Porscheが技術的先駆者であることを体現しただけでなく、たとえ不確実な時代であっても、自らのビジョンを信じ、新たな挑戦を恐れない姿勢を示す象徴でもありました。



1980年代初頭の Porsche 911 SC 3.0 Cabriolet



Porsche 911 Carrera RSR 2.8



Porsche 911 Turbo 3.3 Coupé
後ろに写るのは Porsche 911 SC 3.0 Coupé

G for game changer.
The new generation 911.

Porsche reinvents itself. From 914 to transaxle.

70年代の躍動するPorscheの歴史を語るなら、トランスアクスル ドライブ コンセプトを抜きにしては始まりません。それは、当時のル・マンでPorsche 917が絶対的存在だったのと同じくらい、無視できない革命だったのです。

新たな挑戦を託された最初のトランスアクスル モデルは、伝説となったPorsche 914の後を受け継ぐ使命を負っていました。Volkswagenとの共同開発によって生まれたアイコニックなPorsche 914。このモデルは、ブランドのスポーティな精神を、より若々しく、ライフスタイル志向の方向へと導いた存在であり、確かなインパクトを残しました。ベース価格が12,000ドイツマルク未満という手頃な設定で、Porscheはこのスポーツカーのエントリーモデルを約12万台販売する成功を収めました。



914

924



当時、後継を探していたのは914だけではありませんでした。Porscheのデザイン部門を長年牽引してきたフェルディナンド・アレクサンダー・ポルシェもまた、創造的な情熱に導かれ、1972年に兄弟と共にライフスタイル ブランドPorsche Designを設立します。彼の後任として、Porscheデザイン部門を率いることになったのが、アナトール・トニー・ラピーヌでした。ラピーヌの指導のもと、Porscheはこれまでにない新たなデザイン言語を追求し、大胆な路線を突き進みます。その象徴となるのが924。単なる914の後継ではない、Porscheの進化を体現する一台だったのです。

新たなスポーツ カー時代の幕開け

直線的なシルエットと空力性能に優れたフォルムを備えた最初のトランスアクスル モデルであるPorsche 924は、Porscheのデザイン哲学における大きな転換点となっただけでなく、技術的にも自動車界全体に影響を与えました。エンジンをフロントに、トランスミッションをリア アクスルに配置することで最適な重量配分を実現するというアイデアは、スポーツ カーの世界において革命的だったのです。

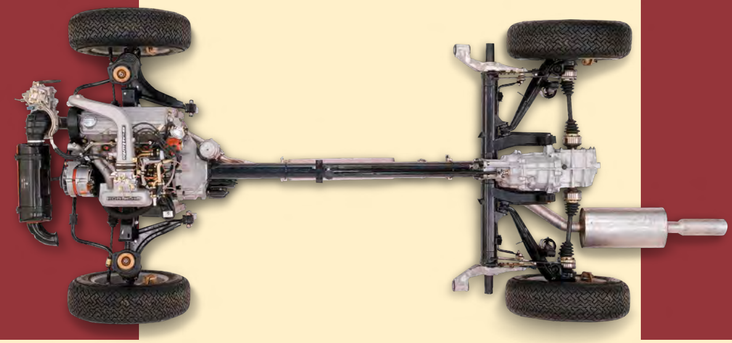
しかし、このトランスアクスル コンセプトを実現するには、大きな障害を乗り越える必要がありました。当初、Volkswagen向けに企画、設計されていたプロジェクト924は、当時のオイル ショックの影響を受け、完成間近にもかかわらずVWによって中止されてしまったのです。それでも、Porscheはこのコンセプトに強い確信を抱いていました。そして、完成寸前だった924に関するすべての権利を取得し、ついに1976年初頭、市場へと送り出したのです。



926

フロントにエンジン、リアにトランスミッション このコンセプトは、説得力のある答えだった

911よりも手の届きやすい価格設定と、よりソフトなデザインを備えた924は、より幅広い層の心をつかみ、Porscheの歴史において確固たる地位を築きました。生産終了となる1988年までに、150,684台という驚異的な販売台数を記録します。この成功は、1982年に登場した後継モデル944にも受け継がれることになりました。



CHASSIS

トランスアクスルとは、トランスミッションとアクスルを組み合わせた造語です。エンジンは、剛性の高いパイプに収められたドライブシャフトを通じて、リア アクスルに動力を伝達します。電子制御のドライブ アシストが存在しなかった時代において、この原理はスポーツカーにおける革新的なコンセプトでした。トランスアクスル構造は、ニュートラルで非常に安全なハンドリング特性を保証していたのです。

Porsche 924 Turboのシャシー、1979年モデル。

928 S



快適性の新基準
Porsche流グランド ツーリング

次なるトランスアクスル革命は、ほどなくして登場しました。1977年、Porsche 928がついに一般公開されたのです。フロントに搭載された8気筒エンジン、アルミニウム製シャシー、そしてステアリング機能を持つヴァイザッハ リア アクスルを備えた928は、当時の自動車専門誌からグランドツーリングの世界を豊かにする、革新的なラグジュアリー クーペと称賛されました。

心を震わせる、唯一無二の存在

操縦性に優れ、快適で安心感のあるGTスポーツカーである928は、顧客たちだけでなく審査員たちも魅了しました。928は、国際的なジャーナリスト団体によって1978年のカー オブ ザ イヤーに選ばれた、史上初にして唯一のスポーツカーであり、Porsche史上最も人気の高いモデルのひとつとなりました。一部で懸念されたものの、928は911と直接的に競合する存在にはなりませんでした。911がスポーツ志向の顧客層に向けられていたのに対し、928は911では小さすぎると感じるファミリー層にとって理想的な選択肢となったのです。最終的に、両モデルはそれぞれPorscheファンの心の中で確かな居場所を見つけました。

トランスアクスル時代は、Porscheの歴史のひとつの章にとどまりません。それは、自分の信じた道を進む勇気と、大切な価値観を守りながらも、常に新しく生まれ変わろうとする姿勢への敬意なのです。

928



928 S



944



少し時代を飛び越えて1980年代へ。1982年春に登場した944は、924のボディをベースにしながらも、はるかに個性際立つフォルムを持っていました。さらに、944にはPorscheが自社開発した2.5リッター直列4気筒エンジンが搭載されていました。944は瞬く間に、多くのファンを獲得していきます。

928



928が生み出したもうひとつの象徴的なデザイン要素は、インテリア デザインの歴史に影響を与えました。928が当時の街の風景を変えたのと同じように、Pasha(パシャ) パターンもまた、その時代のインテリアを彩るアイコンとなったのです。

Thrills follow a pattern.

アイコンの裏側にある物語は、アイコンそのものと同じくらいユニークで刺激的なものです。時を超えて愛されるPasha（パシャ）パターンに纏わるストーリーも、その代表的な存在と言えるでしょう。このパターンが生まれた背景には、特別な人物たち、思いがけない運命の展開、情熱と創造性、そして細部への深いこだわり、何か特別なものを生み出そうとする、強い意志がありました。しかし、ストーリーの始まりはそこではありませんでした。

大きなアイデアがそうであるように、Pashaパターンのストーリーの始まりは意外にも小さなものでした。場所はリガの小さなブティック。当時Porscheのデザイン責任者だったアナトール・トニー・ラピーヌは、ここで幼少期を過ごし、そしてそこで出会ったパターンや色彩への愛が、彼の人生を通してインスピレーションの源となっていきました。

そして、Pashaパターンの創造に欠かせないもう一人の存在が、ヴラスタ・ハッターという若きデザイナーでした。チェコのブルノにある母親の優雅なファッション サロンで育ったヴラスタは、当初、Porscheのような自動車メーカーで働くことを考えてもいませんでした。しかし運命は、彼女に異なる道を用意していたのです。デザインへの情熱と、型にはまらない発想力を兼ね備えた彼女は、Pashaパターンのような前衛的なプロジェクトを形にするのにまさに理想的な人物でした。

デザイン チームが目指したのは、動くチェッカー フラッグを表現すること。モータースポーツで支配的な地位を誇っていたPorscheにふさわしい、勝利とスピード、パフォーマンスと革新を象徴するデザインです。アーティスティックな感性と技術的な精密さを融合させ、さまざまな大きさの長方形を巧みに配置することで、チェッカー フラッグが風になびく動きをパターンとして再現したのです。

こうして生まれたのが、Porscheが持つダイナミズムとエレガンスを視覚的に表現したデザイン。Porscheで長年グラフィックデザインを手掛けたエーリッヒ・シュトレンガーの1971年の作品、シルバー＆ブラックのスクリーンプリント#3も、このPashaファブリックと深い関係があるとされています。

アイコンを生み出すためのファブリック

デザインが完成すると、ヴラスタ・ハッターのチームは次に適切な素材探しに取りかかりました。高い品質と求められる耐久性を兼ね備えるため、選ばれたのはベロア。ループ状に織られた生地をトリミングすることにより光沢を生み出す、ポリエステル素材の織物です。



柔らかくベルベットのようなその質感は、インテリアに特別な手触りをもたらし、触れて心地よく、長距離ドライブでも快適さを感じられるものでした。この素材はPashaと名付けられました。その名称は、シルクやベルベットのクッションに身を委ねるオスマン帝国のスルタンを想起させ、比類なき贅沢さと快適さを表現することを意図しています。



こだわりが生んだ、ひとつの完成形

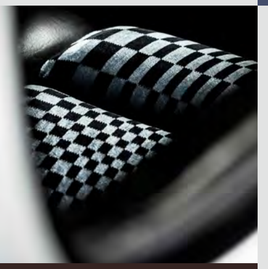
パターンが最終的に完成し、1977年に初めてPorsche 928のインテリアを飾るまでには、いくつもの課題を乗り越えなければなりませんでした。自動織機で織り上げるため、波打つチェッカー フラッグの動きを正確に表現できるよう、各ブロックのサイズを縦横それぞれ計算し、自動織機で織れるように設計する必要がありました。バンベルクに拠点を置くSchoepf社は、Porscheが求める水準に達するまで、無数のサンプルを製作することになりました。



この複雑で数学的課題をさらに難しくしたのは、座席のセンター部分やドアパネルに生地を合わせた際に、デザインが乱雑に見えないように調整しなければならなかったという点。また、広々内装を持つ928専用に設計していたパターンを、1980年以降になって911や924、さらに1982年以降の944といったより小型な車両に採用する際にも、再び大幅な調整を行うこととなりました。



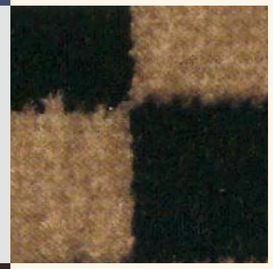
編集協力をいただいた000 Magazineに
心より感謝申し上げます。



時代と響き合うデザイン

この大きな成功は、決して偶然ではありません。70年代、アンドレ・クレージュ、ピエール・カルダン、マリー・クワントといったデザイナーたちは、幾何学的な素材を用いた大胆な作品に挑んでいました。形や色で遊び、常識を打ち破る実験的な創造が、盛んに行われていたのです。Pasha（パシャ）パターンは、この刺激的な10年から生まれた成果でした。自由、革新、創造性を体現するこのデザインは、クリエイティブな時代と、そしてPorscheというブランドに完璧にマッチしていたのです。

その結果として、インテリアとエクステリアの配色が、いわゆるクラシックな調和のとれた組み合わせとは異なる場合もしばしばありましたが、それこそ















が70年代の突き抜けた美意識を体現するものでした。1977年から、928にはブルー/ブラック、ブラウン/ブラック、ベージュ/ブラック、ホワイト/ブラックといったカラー コンビネーションが導入されました。さらに1980年モデル以降の928、911、924向けにブラック/ブルー、ブラック/グレー、ブラック/ベージュといった組み合わせも展開。その後、1984年モデル≈944は1982年から）では、ブルー/グレー、バーガンディ/グレー、ブラウン/グレーといった新たなバリエーションも追加されています。こうした多彩なバリエーションによって、顧客は自分の好みに合わせてPorscheをカスタマイズする幅広い選択肢を手にすることができたのです。





Porsche 928 – ホワイト／ブラックのカラーバリエーション

時代を超えて蘇った

どんな大きなブームにも終わりはあるもの。Pashaパターンも例外ではなく、1980年代半ばには勢いを失い、Porscheのカタログから姿を消しました。時代の美意識が変わり、あの大胆な幾何学デザインは新しい時代の流れには合わなくなっていったのです。Porscheの顧客層もより保守的になり、レザーといったクラシックなスタイルを好むようになりました。加えて、モデルごとにパターンを適用する際の技術的な難しさやコストという点も、大きな障害となっていきました。しかし、Pashaパターンの魅力が失われることはありませんでした。それはラグジュアリー、快適性、そしてスタイルを象徴するタイムレスな存在であり、今もなお無数のPorscheファンの心をときめかせ続けています。今日の視点から見ても、Pashaは Porscheブランドを代表する最も有名なデザイン要素のひとつであり、インテリア デザインにおいて最も印象的で、スタイルを決定づけたアイコンのひとつとされています。

それはまさに、ある時代を表現する存在であり、当時の独特なライフ スタイルや価値観を映し出すものでした。Pasha パターンは、大胆に、そして型にはまらずに生きることを恐れなかった世代の精神を体現しています。

編集協力をいただいた 000 Magazine に心より感謝申し上げます。

「純粋でシンプルな情熱
まさに、それがすべてである」

ボリス・アーベンブリンク
(Exclusive Manufaktur Limited Series & Options ディレクター)

911 Spirit 70のようなアイコンは、一夜にして生まれるものではありません。それは、クリエイティビティ、パッション、そしてクラフトマンシップの結晶なのです。Icons of Coolのプロジェクト チームは、この創造プロセスがどれほどやりがいに満ちていて、同時に困難でもあるかを、身をもって知っています。

胸躍る Heritage Design

Heritage Design Strategyによるコレクターズ モデルを通じて、Porsche Exclusive Manufakturは一貫したストーリーを語り続けています。その背後にあるビジョン、それは各モデルがひとつの章を開き、かつての時代の特別なライフスタイルを、現代のお客様に再び体験してもらうことです。そして、その物語は最初から明確なテーマに基づいて構成されています。当時ならではの、Porscheを象徴するカラーとマテリアルです。

Exclusive Manufaktur Limited Series &Options部門ディレクターのボリス・アーベンブリンクは、こう語ります。「Icons of Coolを通じて、人々の目を輝かせ、過ぎ去った時代へのポジティブな感情を呼び起こし、お客様に純粋な喜びを届けたいと考えています」911 Targa 4S Heritage Design Editionや911 Sport Classicが、それぞれの時代をスタイリッシュに蘇らせたように、911 Spirit 70もまた、人々にインスピレーションを与える存在になることを目指しているのです。

時代は変わる。
だが、スタイルは変わらない

「Helitage Designのテーマにおいて、単なる“レトロ”には決してしたくないこれが最初からの私たちの決意でした。私たちの目指すところは、ブランドを強くしてきた力を、信頼できる形で、そして新しい解釈で未来へと引き継いでいくことです」と、ボリス・アーベンブリンクは微笑みながら語ります。その姿勢は、車両の細部にまで表れています。カラーやマテリアル、そしてそのすべてに一現代的な個性が息づいています。

Style Porscheのカラー&トリム部門責任者、フォルカー・ミュラーはこう付け加えます。「特にオープン トップ モデルである911 Spirit 70では、インテリアとエクステリアのスムーズなつながりと統一感が何より重要なのです」その結果生まれたのが、感情に訴えかける1台。Porscheを形作ってきたすべて、そしてこれからもブランドが貫いていく価値。純粋なスポーツカーの魂に、70年代から80年代初頭のクールなスピリットを融合させたモデル、それが911 Spirit 70なのです。

The art of creating icons.



フォルカー・ミュラー(Style Porscheカラー&トリム部門責任者)、ヴラスタ・ハッター(元カラー&トリム デザイナー)、トルステン・クライン(リミテッドシリーズ デザインプロジェクト リーダー)、ボリス・アーベンブリンク(Exclusive Manufaktur Limited Series & Options ディレクター)

The power lies in the colour.



時に、ある色の歴史は、その色が生まれた時代と同じくらいスリリングです。オリーブ ネオ – 911 Spirit 70 のためだけに開発されたエクステリア カラーもそのひとつ。それは、Porscheの歴史とモダン デザインとの間で巧みにバランスを取った証です。

開発プロセスには、70年代特有の鮮やかな色彩、自由なスピリット、そして華やかな雰囲気が色濃く影響を与えました。「Porscheは常に、人目を引く大胆なカラーで知られてきました。特に70年代には。だからこそ、911 Spirit 70にも、それに負けないほど外向的で印象的、そして鮮やかなカラーを開発することが私たちにとって重要だったのです」と、デザイン ストラテジー ファッション&スタイル部門のダニエラ・ミロシェヴィッチは語ります。

インスピレーション源となったのは、かつてのオリーブとオリーブ グリーン。前者は1960年代末に911のカラー パレットに加えられ、その後の10年間も高い人気を誇りました。後者のオリーブ グリーンは、1978年のPorsche カラー カタログに登場しています。「元のオリーブ カラーは、黄色味が強く、土っぽいキャラクターが特徴でした。今回の私たちの最大の目標は、当時の特徴的なイエローの成分を受け継ぎながら、現代的なテイストを取り入れた、今の時代にふさわしい新しい色を創り出すことでした」と、ダニエラ・ミロシェヴィッチは明かしています。



「カラーは互いに美しく調和し、クルマの個性と本質を際立たせなければならない」

生まれながらにしてユニーク

インスピレーションは、歴史だけでなく自然からも得られました。中でも、トルマリンという宝石からは大きな影響を受けているのです。ダニエラ・ミロシェヴィッチはこう説明します。「オリーブ グリーンのトルマリンは非常に珍しく、特にゴールドとの組み合わせで、圧倒的な存在感を放つのです」

Heritage Design Strategyを象徴するゴールドメッキのエンブレム、そして意図的に選ばれたアクセント カラーのブロンズイト（わずかにゴールドを帯びたグレー）。この色は、オリーブ ネオとの組み合わせによって、911 Spirit 70のエクステリア全体に一体感のある美しいカラー ハーモニーをもたらしています。「カラーにおいても、私たちは歴史的要素を取り入れつつ、911 Spirit 70に新鮮で現代的なタッチを加えています」とダニエラ・ミロシェヴィッチは語ります。

オレンジを超えるグリーン

70年代と言えば、まずグリーン系を思い浮かべる人は少ないかもしれません。新たなコレクターズ モデルのカラーを選ぶ際には、実に多くのニュアンスが検討されました。オレンジからブルー グリーンまで、幅広いバリエーションが候補に挙がったのです。しかし、70年代特有のサイケデリックな感覚、あのスリリングで際立ったエネルギーは、特にオリーブ ネオに強く感じられました。

「もちろん、オレンジについても真剣に検討しました。Porscheのカラー パレットにはシグナル オレンジのような素晴らしいバリエーションもありますから。でも、オリーブの色調の方がより私たちの心を掴んだのです」（ダニエラ・ミロシェヴィッチ）

このカラーはHeritage Designの世界観とも完璧に調和しており、プロジェクト リーダーのトルステン・クラインも、この統一感のあるコンセプトに満足しています。「私たちは、このカラー選定に本当に多くの時間とエネルギーを注ぎました。チーム全員が心の中に、Heritage Design Strategyのすべてのコレクターズ モデルが、いつか1台のガレージに並ぶという夢のような光景を思い描いているんです。オリーブ ネオは、そのシリーズにぴったりの色となりました」Porsche Exclusive Manufakturのチームは、常に最新トレンドに注目しており、グリーンの人気が高まっていること、そしてお客様たちから圧倒的に支持があることも認識していました。考えてみれば、Porscheの歴史においてグリーンはあまり成功した色ではありません。それにもかかわらず、Paint to Sample programにおいて、人気トップ10のうち7つがグリーン系のカラーで占められているのです。「私たちにとって最大の目標は、既成概念を超えて、お客様に驚きを届けることでした。結局のところ、オリーブ ネオは、70年代らしさとして予想されるオレンジよりも、ずっと刺激的な色なのです」とボリス・アーベンブリンクは振り返ります。



Conventions?

They're being overtaken.





開発の最終段階でチームが何より重要だったのは、かつて1970年代にオリジナル デザインを手がけた人物の目にどう映るかという点でした。「私たちは、ヴラスタ・ハッターがヴァイザッハの招待に応じてくれたことをとても嬉しく思っています。彼女はオリジナルのPashaパターンを熟知している人物でありながら、今回のプロジェクトには関与していませんでした。そんな彼女から、新しい911 Spirit 70のパターンを気に入ったと聞けたことは、私たちにとって最高の賛辞でした」とボリス・アーベンブリンクは喜びを語ります。この喜びは、チーム全員で分かち合われることとなりました。

Psychedelic。これが、911 Spirit 70の開発コードネームでした。「ぴったりのタイトルだと思いました。70年代はまさにサイケデリックな時代でしたから。私たちの目標は、その空気感を正確に捉えることだったのです」（ボリス・アーベンブリンク）

デザインチームは、先人たちの仕事と遺産を礎に、その上に新たな創造を築きました。中でも特に重視されたのが、アイコニックなPasha（パシャ）パターンです。「当時のデザイナーたち、ヴラスタ・ハッターを含むメンバーの承認サインが入ったオリジナル パターンは、ただ感情を揺さぶるだけでなく、ブランドの歴史や、当時の仲間たちとの強い絆をも感じさせてくれます」（フォルカー・ミュラー）

Style Porscheのカラー＆トリム デザイナーであるクリス・ホルツィンガーにとって、Pashaパターンの採用は最初から揺るぎないものでした「その鮮やかで未来的なルックスは、70年代を象徴する重要なデザイン要素であり、同時に当時の既成概念にとらわれない精神を体現しています」トルステン・クラインもまた、このパターンを特に成功したハイライトと見ています。「911 Spirit 70を停車させてその場所に降り立てば、間違いなく周囲からこのクルマについて尋ねられるはずです。でも、それこそが私たちの狙いなのです」新しい開発における大きな目標は、オリジナルのバリエーションを尊重しながら、その唯一無二のデザインを現代に蘇らせること。もちろん、最新の糸素材や技術を取り入れたうえでのことです。選び抜かれたフロック ヤーンが、パターンにさらなるスポーティさと、触れた瞬間に感じるエネルギーを与えていました。「この革新によって、デザインのタイムレスな魅力を強調しつつ、そのモダンさも際立たせることができました」（クリス・ホルツィンガー）

真の情熱と緻密な編み込み

「最終的な仕上がりは非常に満足のいくものになりましたが、その裏にはインテリア部門のスタッフによる並々ならぬ忍耐と努力がありました。911 Spirit 70にPashaパターンを組み込むことは、関係したすべてのメンバーにとって骨の折れるような作業だったのです。このパターンは非常に複雑なため、少しのミスも許されません。全体の美しい一体感を保つためには、すべてのカットと縫製をミリ単位で合わせなければなりませんでした」（クリス・ホルツィンガー）

このプロセスは、細部こそがすべてであることを改めて証明しました。ボリス・アーベンブリンクはこう強調しています。「すべての要素が完璧に合うように、私たちは一つひとつ闘っています。妥協をすることは一切ありません」その最たる例が、Pasha バック パネルと称されるPasha テキスタイルのインサートを施したシート バックレストです。特に911 Spirit 70のようなカブリオレでは、まさに視線を奪うハイライトとなっています。実現が危ぶまれたデザイン要素もありました。しかし、社内で懸念の声があったにもかかわらず、チームはビジョンを貫きました。「私たちはこの特別な仕様を、Pashaのダッシュボード トリム パネルとあわせて、オプションとして提供することに決めました。これらの選択肢が、911 Spirit 70の魅力をさらに高めると確信しています」と、ボリス・アーベンブリンクは語ります。

Porscheなら、すべてが可能に

Heritage Design Strategyのようなコレクターズ モデルにおけるカスタマイズは、Porsche Exclusive Manufakturにとってだけでなく、お客様にとっても非常に大切なテーマです。ボリス・アーベンブリンクはこう語ります。「私たちのお客様は、自分たちを本当にワクワクさせるものをよく理解しています。だからこそ、特別なご要望をいただいたときには、私たちもじっくり耳を傾けるのです」

そうしたお客様のアイデアのいくつかは、実際に量産モデルに反映されることもあります。たとえば、Icons of Coolロゴを映し出すLEDドア カーテシー ライトです。あるお客様がこのロゴに心を奪わ れ、911 Targa 4S Heritage Design Editionに搭載してほしいとリクエストされました。そのLEDドア カーテシー ライトは911 Sport Classicにおいても人気が高まり、最終的に、911 S／Tおよび911 Spirit 70のHeritage Design packageに標準装備されることが決定しました。

インスピレーションのもうひとつの源となったのは、Sonderwunschを通じて、911 Sport Classicのグローブ ボックスをペピータのファブリックで仕上げたいというお客様の要望です。このアイデアは社内でも非常に好評を博し、911 Spirit 70においては、Pashaを使用したグローブ ボックスを標準化しています。「少しクレイジーですが、あの時代らしいですよね」とフォルカー・ミュラーは笑顔で語っています。

さらに、ボリス・アーベンブリンクは「実際にお客様から出たアイデアが、車両開発に取り入れられていることを示す素晴らしい例です」と、付け加えています。

Heritage Design Strategyの各モデルは、その時代のユニークさを体現するだけでなく、オーナー自身の個性や、非凡なものへの情熱までも表現しているのです。







燃料消費量、CO_2排出量およびCO_2クラスの詳細については、88ページに記載しております。



燃料消費量、CO_2排出量およびCO_2クラスの詳細については、88ページに記載しております。



The era of self-expression. Especially when it comes to the details.

Exterior design highlights

EXCLUSIVE EXTERIOR COLOUR:
オリーブ ネオ、その他のボディカラーは、ブラック、GT シルバー メタリック及び Paint to Sample からセレクト可能

TOP:
ブラック トップには同系色で施されたデコラティブ ストライプ 3 本が入ります（ご希望により省略可能です）

DESIGN BRONZITE:
ホイール、フロント、リア エプロンには、アクセントとしてブロンズイト ペイントを採用

WHEELS:
20/21 インチ Fuchs® デザインのスポーツ クラシック ホイールはセンターロック式ホイール ハブ カバーにはヒストリック Porsche クレストを装着

DESIGN:
ボンネットにはブラック（サテン グロス）の 3 本のデコラティブ ストライプが入ります（ご希望に応じて、サイドデコグラフィックと併せて省略することが可能です）

LOLLIPOP AND IROC LETTERING:
車両サイドのヒストリカル デザインのデコラティブ グラフィックのカラーは、ボンネットのブラック（サテン グロス）ストライプとコーディネートされています。パーソナル スタート ナンバーを選択することができます（ご希望に応じて非装着にすることも可能です）

BADGE:
リア カバー グリルに Porsche Helitage バッジを装着

DETAIL:
フロント フェンダーにゴールド メッキ仕上げの PORSCHE Exclusive Manufaktur バッジを装着

HISTORY:
ボンネットには 1963 年の Porsche クレストを装着

SIGNATURE:
PORSCHE ロゴおよびモデル バッジはゴールド メッキ仕上げ

COWL:
カウル フレームはブラック（サテン グロス）フィルム仕上げ

SIDE:
スポーツ デザインのサイド スカートを装着

標準装備およびカスタマイズ オプションの詳細については、
www.porsche.com/911Spirit70
または Porsche Car Configurator をご覧ください.

燃料消費量、CO_2排出量およびCO_2クラスの詳細については、88 ページに記載しております。

オリーブ ネオ

Paint to Sample（シグナル オレンジ）

GT シルバー メタリック

ブラック

燃料消費量、CO_2排出量およびCO_2クラスの詳細については、88 ページに記載しております。



911 Spirit 70 のために、私たちデザイナーは 70 年代の美学を捉えた、エクスクルーシブでスリリングなカラーを創り出すことを目指しました。多くの人がすぐに思い浮かべるのは、オレンジやイエローといった典型的で鮮やかなカラー スペクトルでしょう。しかし、改めて 70 年代を見つめ直すと、当時にはもっと多様な色彩が存在していたことに気づきます。私たちは、驚きを提供しつつも、その時代の精神に忠実であるために、Porsche ではこれまで存在しなかった特別なカラーを開発しました。それがオリーブ ネオです。このカラーは、かつてのオリーブおよびオリーブ グリーンの伝統色を再解釈したものです。

オリーブ ネオは、70 年代の自由を愛する時代を思い起こさせると同時に、現代的な美意識をも漂わせる、豊かで深みのあるグリーンです。

911 Spirit 70 では、オリーブ ネオに加えて、ブラック（ソリッド）および GT シルバー メタリックという伝統的なエクステリア カラーや、シグナル オレンジなど 130 色以上のカラーが用意される Paint to Sample から選択可能です。70 年代の雰囲気を感じさせるオレンジやイエローをどうしても手に入れたいという方は、Paint to Sample プログラムを利用ください。お客様の理想を叶えることが可能です。

A colour that reflects its decade. Surprisingly different.

Setting the tone.



エクステリア カラーのオリーブ ネオは、フロント エンド、リア エプロン、Sport Classicホイールに施された繊細なブロンズイトのディテールによって引き立てられます。アクセント カラーがオリーブ ネオの深みのあるグリーンを際立たせ、歴史と今が美しく調和したカラー コンビネーションを生み出します。この組み合わせは、Porscheが常に新しい驚きをもたらしながらも、自らの本質を守り続けていることを証明しています。



With every accent.

An all-round legendary look.

70年代を思わせるアイコニックなスタイル。20/21インチのSport Classicホイールは、ブラック（サテン グロス）とブロンズイトで塗装されるセンター ロック仕様。伝説的なFuchsfelge®のデザインをベースに、最高のパフォーマンスとクラシックな美しさを融合しています。1963年のヒストリックなPorsche クレストがあしらわれた特別なホイール ハブ カバーが、偉大な歴史を物語っています。

さらに、70年代のスタイルに合わせて、ブレーキ キャリパーはブラック（ハイ グロス）に塗装され、ホワイトのPORSCHEロゴがあしらわれています。常に革新を続 け るPorsche。1967年、PorscheはOtto Fuchs KGとともに911 Sで新たな基準を打ち立てました。自動車用としては初めてとなる軽合金鍛造ホイールを開発し、従来のスチール ホイールと比べて大幅に軽量化を実現しつつ、同等の強度を担保することに成功したのです。Fuchsfelge®として知られるこのデザインは、自動車の歴史において最も有名なホイールデザインのひとつとなりました。



Fuchsfelge® from 1967

燃料消費量、CO_2排出量およびCO_2クラスの詳細については、88ページに記載しております。

Certainly unmistakable.
The safety stripes.



911 Spirit 70 は、細部に至るまで歴史を感じることができます。なかでも、知る人ぞ知るセーフティ ストライプは、特に Porsche ファンの心をくすぐるディテールです。

このストライプが生まれたのは、1970 年代初頭。高速道路やサーキットにおいて、小さなスポーツ カーをバックミラー越しでも認識しやすくするために導入されたもので、やがて安全性とスタイルの象徴として定着しました。ストライプ下部には、象徴的な “911” のスタイライズド ロゴがあしらわれ、スポーティな印象をさらに高めています。

また、歴史をモチーフにした要素として、911 Spirit 70 のボンネットからルーフへ抜ける空気の流れをなぞるように走る 3 本のブラック（サテン グロス）のダイナミックなデコラティブ ストライプも採用しました。ご希望に応じて、ボンネットのデコレラティブ ストライプとボディサイドのグラフィックはセットで非装着にすることも可能です。コンバーチブル トップに施されたストライプは、他のグラフィックとは別に単体で非装着とすることができます。

燃料消費量、CO_2排出量およびCO_2クラスの詳細については、88 ページに記載しております。

PORSCHE

A significant number. In every situation.

Porscheの輝かしいモータースポーツの歴史には、数々の伝説的なスタート ナンバーが存在します。1951年、356 SLが46番をつけてル・マンに初出場したことに始まり、1970年には23番をまとった伝説の917が、ル・マン初の総合優勝を果たしました。この歴史的な勝利によって、Porscheはモータースポーツ界におけるトップ ブランドのひとつとして不動の地位を確立することとなるのです。

911 Spirit 70では、車両のサイドに自由に選べるスタート ナンバー（0～99）が用意されています。ヒストリックなロリポップ ステッカーは、ブランド初期におけるレースでの成功を思い起こさせます。

カラーは、ボンネットに描かれたブラック（サテン グロス）のデコラティブ ストライプとマッチし、サイドにあしらわれたIROCデザインのPORSCHEロゴと完璧に調和します。IROCとは、International Race of Championsというレーシングシリーズに由来しています。*

これまで、スタート ナンバーには明確な系譜がありました。911 Speedsterの Heritage Design Packageは48番、911 Targa 4S Heritage Design Editionは50番、911 Sport Classicは60番、911 S/Tの Heritage Design Packageは63番が与えられています。そして、スペシャル モデルである911 Turbo 50 Yearsには74番が採用されました。911 Spirit 70では、出荷時に70または、Pasha（パシャ）パターンが初めて使用された年を記念する77という2つのスタート ナンバーが推奨されます。

*ロリポップ ステッカー、PORSCHEロゴ、デコラティブ ストライプを含むデコラティブ グラフィックは、希望に応じて省略することが可能です。



燃料消費量、CO_2排出量およびCO_2クラスの詳細については、88ページに記載しております。



オプション 1：ボンネットにブラック（サテン グロス）のデコラティブ ストライプ、車両サイドにPORSCHEロゴとスタート ナンバー入りロリ ポップを装着



オプション 2：ボンネットにブラック（サテン グロス）のデコラティブ ストライプ、
車両サイドにPORSCHEロゴを装着



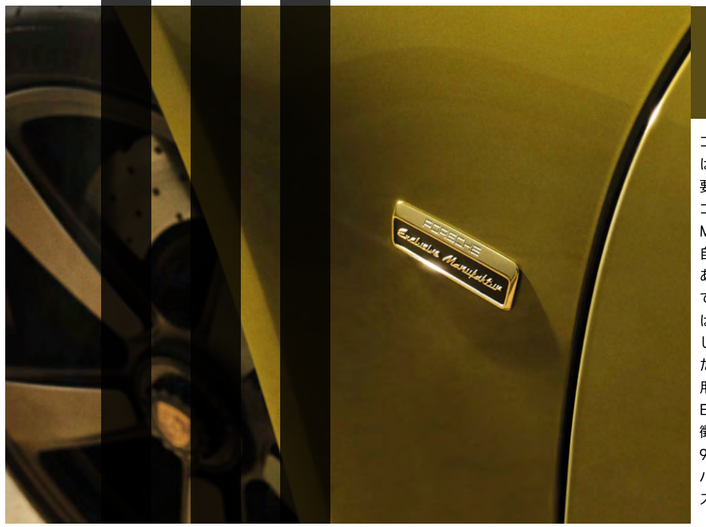
オプション 3：デコラティブ ストライプを含むすべてのデコラティブ グラフィックを非装着

Exceptional.



911 Spirit 70には、その個性を際立たせる多くの特別な特徴があります。そのひとつが、リア リッドに取り付けられたPorsche Heritageバッジです。このバッジは、1950年代に10万キロを走破した356オーナー達へ優れたエンジン性能の証として贈られたバッジのデザインを現代に蘇らせたものです。

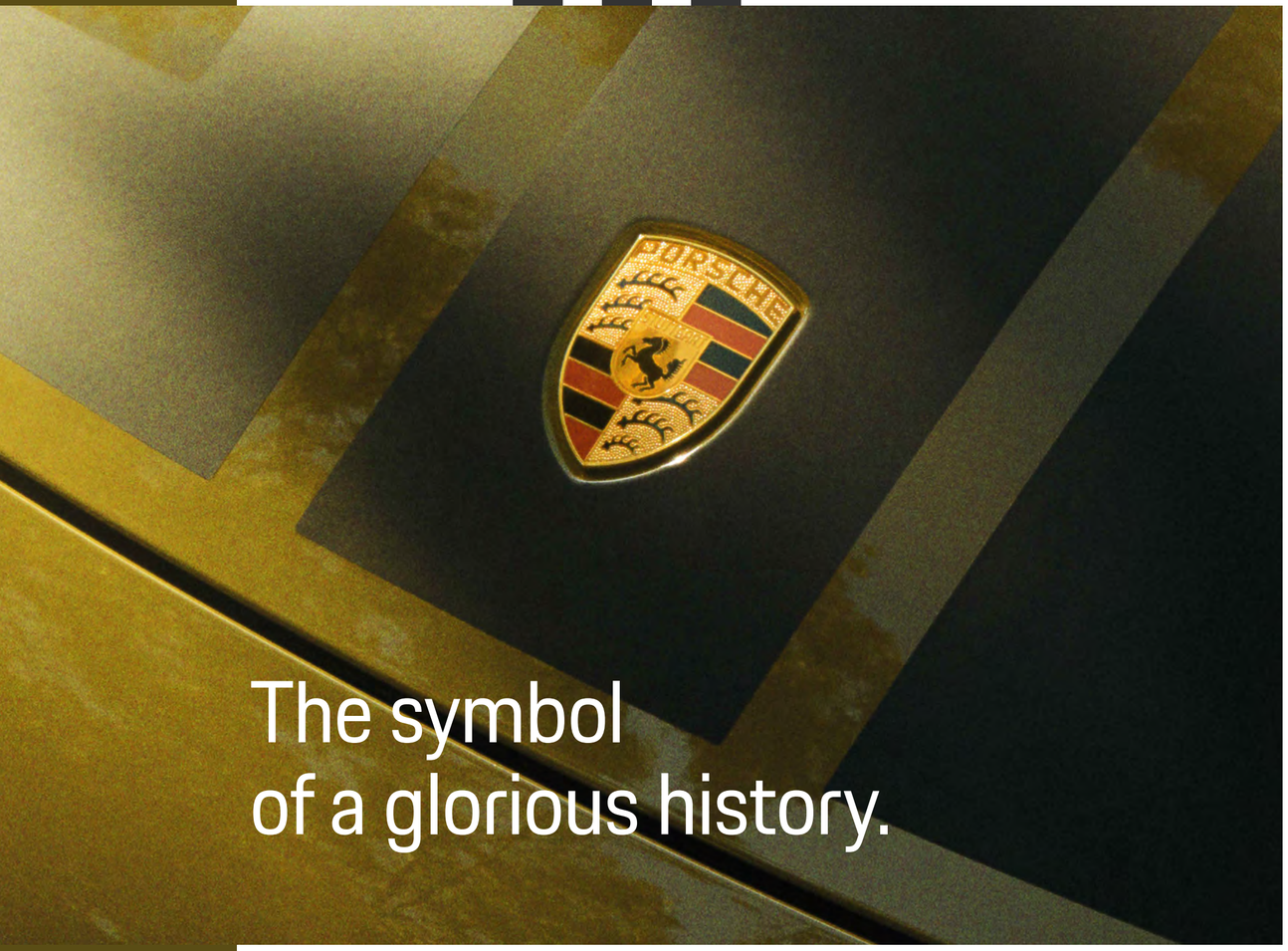
この専用カラーリングのバッジは、すでに911 Targa 4S Heritage Design Editionや911 Sport Classicのリア リッドに装着されており、すべてのHeritage Designモデルを象徴する証となっています。



コレクターズ アイテムである911 Spirit 70には、それにふさわしい特別なディテールが必要です。フロント フェンダーにあしらわれた、ゴールド メッキ仕上げのPORSCHE Exclusive Manufakturバッジは、この車両の明確な出自を示すとともに、かつてのIcon of Coolである911 Sport Classicへの敬意も込められています。このManufakturバッジの伝統は、2009年に初代Sport Classicで蘇りました。かつてはReutterやKarmannといった著名なコーチビルダーに敬意を表すために用いられていたものですが、現在はPorsche Exclusive Manufakturの特別なルーツを象徴するシグネチャーとして使用されています。911 Spirit 70の為に仕立てられたこの2つのバッジは、オプションでブラック（サテングロス）仕様を選択することも可能です。

100,000 KILOMETRES

燃料消費量、CO_2排出量およびCO_2クラスの詳細については、88ページに記載しております。



The symbol of a glorious history.

Porscheの卓越したヘリテージと歴史をこれほどまでに表現するシグネチャーは、ほかにありません。それがPorscheクレストです。この欠かすことのできないトレードマークは、印象的なデザイン要素であるだけでなく、すべてのPorscheファンの心に直接訴えかける存在でもあります。

911 Spirit 70をはじめ、Heritage Design Strategyに基づくすべての車両のボンネットには、1963年当時のクレストをほぼ忠実に再現されたヒストリック クレストが飾られています。911オリジナルの時代を象徴するこのクレストの特徴は、鮮やかなレッド オレンジの色味。PORSCHEロゴは高級感のあるゴールドトーンで、文字は幅広にデザインされています。中央の馬は、力強い肩と豊かな尾が際立っており、上部には、彫り込まれた背景の上にStuttgartの都市名が描かれています。このクレストには、Porscheのルーツであるシュヴァーベンの地への深い敬意が込められています。

細部へのこだわりとして、このヒストリック クレストはステアリングホイールや車両キー、レザー キー ケース、そして20/21インチSport Classicホイールのホイールキャップにもあしらわれています。また911 Spirit 70のヘッドレストにも高品質なエンボス加工で刻まれています。

アイコンの進化

どんな偉大な成功も、小さな一歩から始まります。ブランド車両に初めてPORSCHEロゴが使用されてからわずか4年後に、このクレストは登場しました。ロゴが完成したのは1952年末。ホーン ボタンに採用されたのが最初でした。その後、1954年11月には356 Speedsterのボンネット ハンドルに組み込まれました。1959年からは、ツッフェンハウゼンで生産されたスポーツ カーのハブ キャップにもこのクレストがあしらわれるようになりました。

このクレストの誕生には、偶然も関係していました。アメリカへの出張中、現地の自動車輸入業者マックス・ホフマンがフェリー・ポルシェにロゴについて提案したのです。1951年12月27日、Porscheはステアリングホイールのハブにおよびシュトゥットガルトの紋章もしくはそれに類するものを装飾と記録しています。1952年初頭には、才能あるデザイナーであるフランツ・クサーヴァー・ライムシュピースが、Porscheクレストの原型を描き、ひとつの時代が幕を開けました。それ以来、この商標は1954年、1963年、1973年、1994年、2008年、そして最新では2023年にリファインされてきました。ただし、変わることのなかったものがひとつあります。それは、その精緻な製造工程です。

Heritage Design Strategyのような特別な車両のために、クレストは当時のオリジナル図面をもとに、素材の忠実性を保ちつつ、特別な工具を使って新たに丁寧に製作されています。



時代を映すシンボル:
1954年から現在に至るPorscheクレストの変遷。

- 1954–1965
- 1963–1973
- 1973–1994
- 1994–2008
- 2008–2023
- Since 2023

(L–R)

燃料消費量、CO_2排出量およびCO_2クラスの詳細については、88ページに記載しております。

As timeless as the 911.

Gold.

Porscheの初期モデルにはシルバー カラーのロゴが使われていましたが、1950年代半ば以降になると、リアにゴールド メッキ仕上げのサインを入れることが徐々に一般的となり、よりエクスクルーシブな印象を生み出すようになりました。

Icons of Coolとして知られるコレクターズアイテムである、911 Targa 4S Heritage Design Edition（2020年）と911 Sport Classic（2022年）及び、911 Speedster（2019年）、911 S/T（2023年）、911 Turbo 50 Years（2024年）で設定された3つのHeritage Designパッケージと同様に、911 Spirit 70もまた、歴史的なデザイン要素を受け継ぎながらも、現代的な解釈を踏まえた上で再構築された一台です。リアには、ゴールドメッキ仕上げのPORSCHEロゴとモデル バッジがあしらわれており、洗練された存在感を放ちます。なお、バッジはオプションでブラック（サテン グロス）を選択することも可能です。

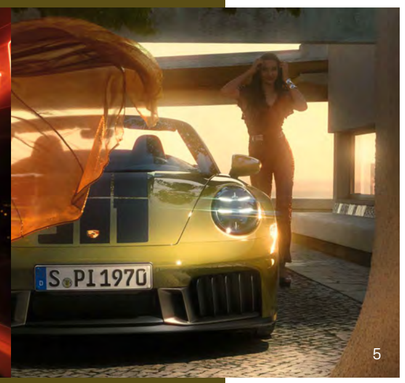
燃料消費量、CO_2排出量およびCO_2クラスの詳細については、88ページに記載しております。

The magic of an era lies in its details.











1) インドア用カーカバー
2) カウル フレーム（ブラック／サテン グロス）
3) スポーツ テール パイプ（チタン製）
4) SportDesign サイド スカート（ブラック／サテン グロス）塗装
5) LED マトリックス ヘッドライト
6) オプション アクセサリー：
Pasha（パシャ）ファブリック仕様のチャイルド シート カバー
7) レッドのテール ライト



911 Spirit 70は、自己表現、情熱、創造性にあふれた時代を讃えるモデルです。特に、一目では気づかないようなディテールに、その魅力が表れています。たとえば、特別にデザインされたインドア用カー カバー。ホコリや汚れから車体を保護するだけでなく、他のHeritage Designモデル用インドア カー カバーとの調和も取れたデザインとなっています。911 Spirit 70のすべてのエクステリア オプション（追加料金の有無を問わず）は、Car Configuratorにてご確認いただけます。









燃料消費量、CO_2排出量およびCO_2クラスの詳細については、88ページに記載しております。





Transported into a unique era.

Interior design highlights

PATTERN:
シート センターパネル（18-way sports seats Plus）、ドア パネル、グローブ ボックス、リバーシブル仕様のラゲッジ コンパートメント マットには、ブラック／オリーブ ネオの Pasha（パシャ）ファブリックが使用されています。（よりニュートラルなブラック／ダーク シルバー仕様も選択可能）。また、シート バックレスト インサートおよびダッシュボード トリムにも、同素材をオプションで設定可能です

INTERIOR EQUIPMENT:
バサルト ブラックのエレガントなクラブ レザー インテリアには、オリーブ ネオのデコラティブ ステッチがあしらわれます（よりニュートラルなバージョンとして、スレート グレーのステッチも選択可能です）

DECOR:
インテリア パッケージにはバサルト ブラックのクラブ レザーが使用され、ダッシュボードには、オリーブ ネオでペイントされたアクセントトリムが装着されます（ダーク シルバー仕上げも選択可能です）。

UNIQUE:
ダッシュボードのデコラティブ トリムには、ゴールドメッキ仕上げのリミテッド エディション バッジが装着されます

ROOF LINING:
パンチング加工が施された Race-Tex 素材で仕立てられ、同系色であしらわれた 3 本のストライプが入ります

HISTORY:
ヘッド レストとステアリング ホイールには、1963 年仕様の Porsche クレストがあしらわれます

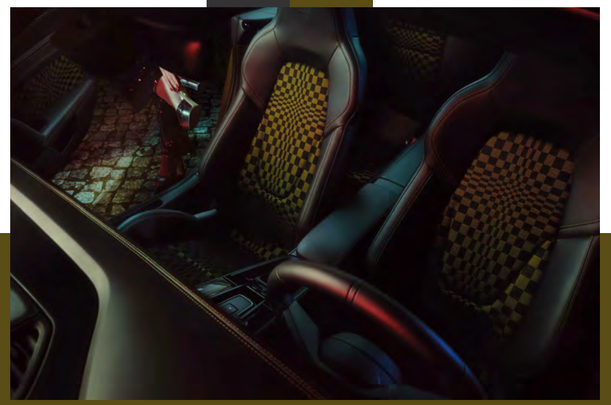
DISTINCTION:
ストレージ コンパートメント リッドにはエンボス加工が施されます

DISPLAY:
歴史的なデザインに着想を得たインストゥルメント クラスターと、Heritage Design の Sport Chrono ストップウォッチ ダイヤルが採用されます

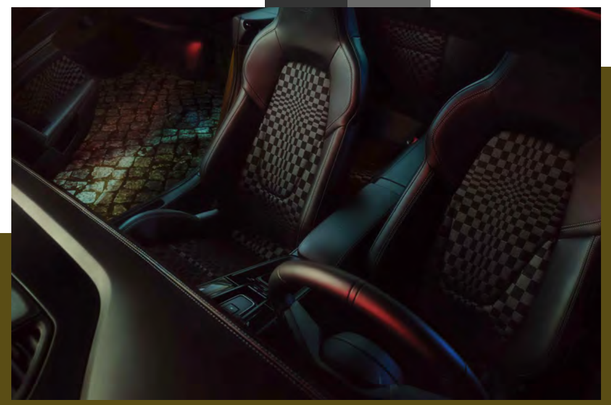
FOOTWELL:
ブラックのレザー エッジングとデコラティブ ステッチを施した、Heritage Design のフロア マットが採用されます

標準装備および個別装備に関するすべての詳細情報は、
www.porsche.com/911Spirit70
または Porsche Car Configurator にてご確認いただけます。

燃料消費量、CO_2排出量およびCO_2クラスの詳細については、88 ページに記載しております。



ブラック／オリーブ ネオのコンビネーション



ブラック／ダーク シルバーのコンビネーション

A pattern as vibrant as the 70s.

魅惑的で、エネルギッシュ、そして象徴的。このパターンの起源はコーデュロイやベビータとは異なり、ファッションの世界ではなく、ヴァイザッハのPorsche開発センターにあります。揺れ動くチェッカーフラッグに着想を得たPasha（パシャ）パターンは、モータースポーツの世界やスピードのスリル、レースの高揚感へのオマージュとして生まれました。サイケデリックなチェッカーボード パターンは、過去と現在、伝統と革新を結びつけるものであり、Porscheの精神を細部にまで表現した、特徴的なデザインです。

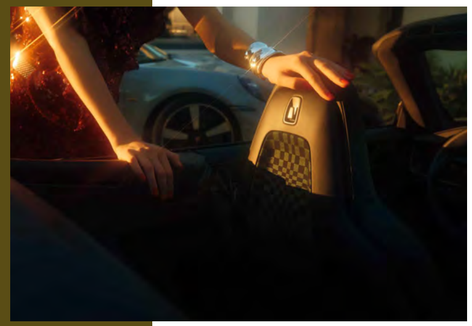
このパターンは、1977年に南フランスで公開された928に初めて採用され、その後、911、924、944などのモデルにも展開されました。1980年代半ばまで使用され、Porscheのインテリア デザインの中でも特徴的な存在となりました。そのカラー バリエーションも、当時の70年代らしい多様性を反映しています。

2017年、Heritage Design Strategyコンセプトの構想が生まれた初期段階から、デザイン チームには明確な方針がありました。911 Spirit 70では、Pashaパターンを現代に蘇らせる必要があると。それも、安全性や快適性に関する現代の基準を満たすよう品質を高めたかたちで。新たに使用されたフロック ヤーンにより、パターンにはスポーティな印象が加わり、触り心地と快適性も向上しています。特に長距離走行時に、その効果が発揮されます。

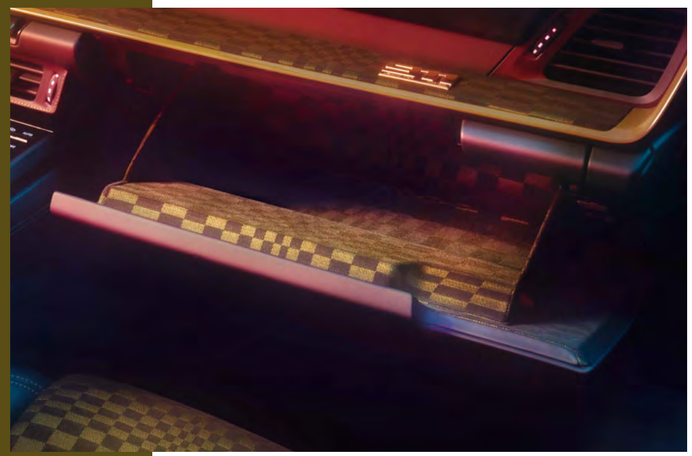
このパターンは、デザインを特徴づける要素として、ドア パネルおよびシート センター パネル*に使用されています。外装との調和を意識したブラック／オリーブネオのカラーが標準で、より落ち着いた印象を求める方には、ブラック／ダーク シルバーのバリエーションも用意されています。

*Pasha仕様の場合、オプションのシート ベンチレーションを装着する事はできません。

シュボードのデコラティブ パネルやシート バックレストには、オプションでPasha パターンのテキスタイル インサートを装着することができます。911 Spirit 70のようなオープントップモデルでは、特に印象的なアクセントになります。







ひと目でわかる特別さ
何度見ても、それは変わらない

911 Spirit 70には、ひと目で印象に残るデザインだけでなく、見ていくうちに気づくような細かなディテールも含まれています。たとえば、グローブ ボックスの内側にはPashaテキスタイルが使われており、リバーシブルのラゲッジ コンパートメント マットにも同じ素材が採用されています。細部へのこだわりは、思いがけない場所にまで及んでいます。それが、911 Spirit 70の特徴のひとつです。

燃料消費量、CO_2排出量およびCO_2クラスの詳細については、88ページに記載しております。

Typical 70s.
Every detail is an eye-catcher.



アイコンにふさわしい素材。それが、オリーブ ネオのデコラティブ ステッチを施したバサルト ブラックのエレガントなクラブ レザーです。オプションで、スレート グレーのステッチによるよりニュートラルなバージョンも選択できます。特別なクラウド プリントがレザー本来の価値を引き立てます。クラブレザー パラスト ブラック インテリア パッケージと、ダッシュボードおよびドアパネル用の追加インテリア パッケージに加え、サイドシル パネル、スリット付きのエア ベント、カップホルダーのカバーにも高品質なレザーが使用されています。

見る者に最も強い印象を与えるのは、ささやかなディテールだったりすることがあります。ダッシュボードのデコラティブ トリムに取り付けられたゴールドメッキ仕上げのリミテッド エディション バッジも、そのひとつです。911ロゴとモデル名に加え、個別のリミテッド エディションナンバーが刻まれており、911 Spirit 70が希少性を備えたコレクターズ カーであることを示しています。このモデルは世界限定で、1500台のみがPorsche Exclusive Manufakturによって生産されます。

911 Spirit 70の洗練されたカラー コンセプトは、大胆さと繊細さの両面で目を引きます。オリーブ ネオに塗装されたダッシュボードのアクセント ストリップは、インテリアとエクステリアの一体感を高める役割を果たします。これは、トリム パネルがPasha（パシャ）であってもレザーであっても同様です。ダーク シルバーのニュートラル バージョンでも、このアクセント ストリップはインテリアにさりげない存在感を添えています。

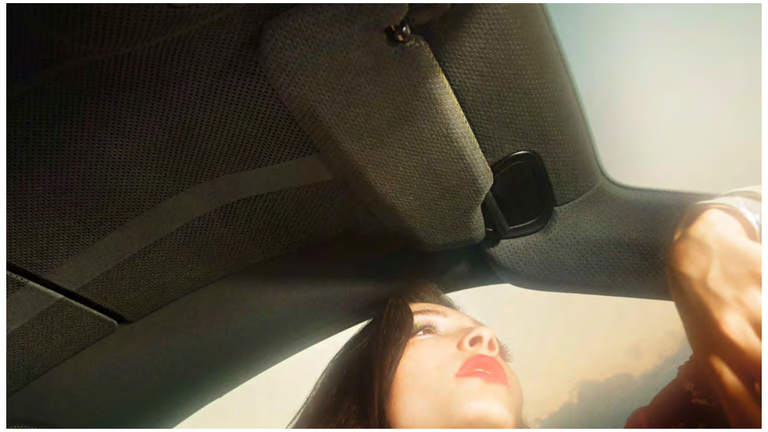
燃料消費量、CO_2排出量およびCO_2クラスの詳細については、88ページに記載しております。



Even when closed, it is still open to enthusiasm.

時代を超えて愛される特徴。1955年に登場したPorsche 356 Aでは、パンチング加工のルーフ ライニングが特別なデザイン要素として採用されました。その特徴は、911 Targa 4S Heritage Design Editionや911 Sport Classicにも受け継がれています。911 Spirit 70ではルーフ ライニング、カウル フレームに加え、今回初めて、サンバイザーにもパンチング加工が施されたRace-Texを使用しています。

エクステリア デザインとの一貫性を持たせるために、ルーフライニングにも同系色で仕立てられた特徴的な3本のストライプがあしらわれており、同様にパンチング加工が施されています。細部にいたるまで、その拘りは徹底しているのです。



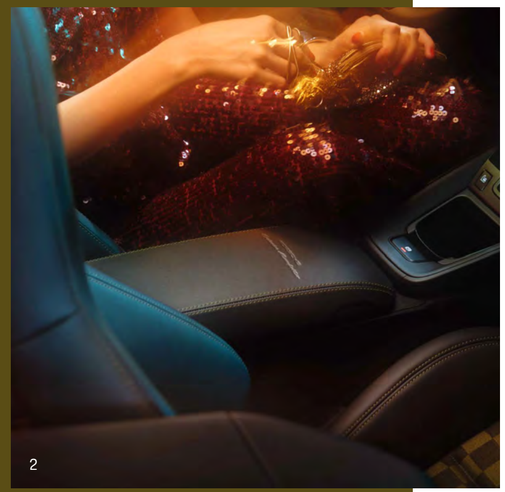
燃料消費量、CO_2排出量およびCO_2クラスの詳細については、88ページに記載しております。

An all-round lasting impression.

911 Spirit 70 には、末永く心に残るディテールが数多く備わっており、歴史との深いつながりを感じさせてくれます。たとえば、エンボス加工で表現された1963年のヒストリック Porscheクレスト。これは、アダプティブ スポーツシート Plus(18-way) のヘッド レストや、レザー製のキー ポーチにあしらわれています。

また、センター コンソール内のストレージ コンパートメントや車載用ブリーフ ケースには、エンボス加工にて PORSCHE Exclusive Manufaktur のロゴがあしらわれており、さりげなくエクスクルーシブな雰囲気を演出するとともに、シュトゥットガルト - ツッフェンハウゼンにある工房のクラフトマンシップを想起させる役目を果たしています。インテリアの洗練された印象は、バサルト ブラックのレザー エッジングとデコラティブ ステッチを備えた Heritage Design のフロア マットによって完成されます。


1


2



3

1) ヘッドレストにエンボス加工された 1963年の Porsche クレスト
2) PORSCHE Exclusive Manufaktur のロゴがエンボス加工であしらわれるストレージ コンパートメント リッド
3) Heritage Design のフロアマット
4) PORSCHE Exclusive Manufaktur のエンボスが施されたレザー ボード製ブリーフケース及び、キーとキー ポーチ（1963年の Porsche クレスト付き）


4

燃料消費量、CO_2排出量およびCO_2クラスの詳細については、88ページに記載しております。

Innovative by tradition: the instrument cluster.



過ぎ去った時代へのオマージュが、これほど時代の先を行く存在になり得ることに、心が躍ります。911 Spirit 70のHeritage Designインストゥルメント クラスターでは、歴史的なデザインと最先端のテクノロジーが見事に融合しています。たとえば、高解像度の12.65インチ ディスプレイ。ホワイトの針とスケール ラインによるアナログ調のデザインが、コントラストを際立たせます。グリーンの数字は、伝説的なPorsche 356を想起させるものです。そして、911 Spirit 70のモデル ロゴは、フル デジタルのレブカウンターにさりげなく統合されています。

もうひとつのデザイン要素として、356に着想を得たSport Chronoストップウォッチも挙げられます。ホワイトの針とグリーンの数字の組み合わせは、まさにヒストリックなラップタイムを想起させてくれるのです。この特別なディテールは、911 Spirit 70のエクスクルーシブなキャラクターを際立たせ、量産モデルとは明確に一線を画すものです。同様に、Heritage Designのコンセプトに基づき、細部にまでこだわって開発されたデジタル表示の演出も、特別な存在感を放っています。



燃料消費量、CO_2排出量およびCO_2クラスの詳細については、88ページに記載しております。



The perfect introduction to an era.

ドアを開けると同時に、LEDドア カーテシー ライトがアニメーション付きのIcons of Coolロゴを足元に照らし出します。ブラックのアルマイト加工を施したアルミニウム製のイルミネーション付きドア シル パネルには、911 Spirit 70のロゴがあしらわれており、もうひとつの特別なハイライトとなっています。



燃料消費量、CO_2排出量およびCO_2クラスの詳細については、88ページに記載しております。

Another highlight of the 70s: the founding of Porsche Design.



新たな道を切り拓き、創造性を深く追求し、誰も予想しなかった未来を描き出す。フェルディナンド・アレクサンダー・ポルシェ教授は、常に時代の先を走り続けていました。彼は、母ドロテアと父フェリー・ポルシェの長男として生まれ、幼少期からシュトゥットガルトにある祖父のデザイン オフィスや開発施設で多くの時間を過ごしました。1957年には、ついにファミリー ビジネスにデザイナーとして加わります。最初の大きな課題は、後にPorsche911として知られるモデルのデザインでした。そのデザインには、フェルディナンド・アレキサンダー・ポルシェの技術、素材への探究心、そして純粋主義としての感覚が反映されており、その結果生み出された象徴的なフライラインは今日まで継承されることとなります。

1972年、彼は自身の創造性を新たな形で表現し、自動車の枠を超えてPorscheの伝説を広げることを目指しました。弟のハンス・ペーター・ポルシェと共にPorsche Designを設立し、このビジョンを現実のものとしました。その決定的なきっかけを与えたのは、Porsche本社でした。フェルディナンド・アレキサンダー・ポルシェは、記念品としてふさわしいものとして、911に着想を得たChronograph 1をデザイン。モータースポーツで使用されるマシンと同様、軽量構造を持ち、優れた視認性が追求されました。その結果生まれたのは、機能性と耐久性、そしてミニマルな美しさを融合させた革新的なタイムピースでした。この時に生まれた哲学とデザイン言語は、今日のすべてのPorsche Design製品にも受け継がれています。





Porsche 911 S 2.4 Targa



Chronograph 1 – 911 Edition 50 Years Porsche Design

The spirit of the 70s.
With modern technology.

サイケデリックなファブリック パターンが、未だかつてない形で手元に甦る。それが、ハンドクラフトで生み出された限定モデルである Chronograph 911 Spirit 70。その精緻なディテールは、モータースポーツへのオマージュであり、50年という時を巻き戻す特別な存在。これは、911 Spirit 70のオーナーだけのために用意された特別仕様となります。

このクロノグラフと911 Spirit 70の最も印象的な共通点のひとつは、ダイヤルにプリントされたブラック ハイグロス仕上げのPasha（パシャ）パターンです。これは911 Spirit 70のシート センターをモチーフとしており、7層の反射防止サファイア クリスタルでしっかりと保護されています。また、ヘリテージ レブ カウンターをオマージュした、フォスファラス グリーンとトラフィック レッドの配色、日付表示のフォント、ベゼルの分·秒スケールも特筆すべき点として挙げられます。ケースはすべてブラック チタニウム カーバイド コーティングが施されたチタン製で、Porscheの特徴である軽量構造の哲学が継承されています。ケース バックには限定番号が刻まれており、車両とクロノグラフの深いつながりをさらに印象づけます。また、Spirit 70の文字が入ったレザー ストラップは、車両と同じレザーとステッチと使用して製作されており、バサルト ブラックの本革をベースに、911のボンネット グラフィックをエンボス加工があしらわれています。デコラティブ ステッチはオリーブ ネオまたはスレート グレーから選択することが可能です。COSC認定を受けたデイト ディスク付きPorsche Design Calibre WERK 01.100は、911 Spirit 70のホイールをモチーフにしたデザインと、サテン ブラックとブロンズイトで仕上げられた360°ローターによって駆動され、このクロノグラフのインスピレーションとなったPorscheの存在を明確に示しています。



燃料消費量、CO_2排出量およびCO_2クラスの詳細については、88ページに記載しております。





1970 年代が、現代のコレクションに

この時代の感覚は、自動車だけに留まらず、ライフスタイルにも息づいています。911 Spirit 70 に合わせてデザインされた Porsche Lifestyle Collection で は、70 年代の空気をスタイリッシュかつ本格的に体感することができます。オリーブ ネオのボディにブラックの 3 本ストライプとブロンズイトのアクセントを組み合わせた 911 Spirit 70 のデザイン、そしてシートのアイコニックな Pasha（パシャ）パターンが、この特別な Heritage コレクションのインスピレーションとなりました。コレクションには、デイウェア、スポーツウェア、ライフスタイル アクセサリー、モデルカーなど、多彩なコレクターズ アイテムがそろっています。そのひとつひとつが、911 Spirit 70 の世界観を体現しています。マット仕上げの Icons of Cool バッジ、織り込みの Porsche Design ロゴ、伝説的な Pasha パターン、そしてオリジナルのソフトトップに着想を得たブラック ナッパ レザーのヘリテージ バッグに至るまで、すべてのディテールには徹底した拘りと時代への敬意が込められています。これは、911 Spirit 70 とともに、かつてないほど自由を感じられたあの時代の空気を呼び戻すためのコレクションです。

Discover the Spirit 70 collection.

燃料消費量、CO_2排出量およびCO_2クラスの詳細については、88 ページに記載しております。

The spirit of a whole generation.

The 70s for more 911 fans: Heritage Design Package Pasha.



911 Targa 4 GTS（WLTP） 燃料消費量（複合）：10.9 – 10.7リットル/100 km CO_2排出量（複合）：248 – 242 g/km CO_2クラス：G 2024年4月時点




1


3


2


4



5

70年代のような時代を再び体験することはできません。しかし、その特別な雰囲気をあらためて感じることは可能です。オプションのHeritage Design Package Pashaは、多くのPorscheファンの方が、自身の911でこの特別な時代の雰囲気を楽しむ手段として提供されています。

インテリア パッケージのスタイルを特徴づける要素には、911 Spirit 70にも採用されている装備が数多く含まれています。たとえば、バサルト ブラックのクラブ レザーと、ブラック／ダーク シルバーのPasha（パシャ）テキスタイルです。Pasha パターンは、フロントおよびリアのシート センター パネル、グローブ ボックス、ドア パネルに使用されており、オプションでシート バックレストにもデコラティブ インサートを装着する事ができます。ダッシュボード トリムに取り付けられたシルバーの911バッジや、Icons of Coolロゴをアニメーションで足元に映し出すLEDドア カーテシー ライトも印象的な装備です。インストゥルメント クラスターとSport Chronoストップウォッチも Heritage Designとなっており（Sport Chronoパッケージ装着時に限ります）、細部まで当時の雰囲気を感じさせます。

1） オプション：Pasha パターンのインサートが施されたシート バックレスト（ブラック／ダークシルバーのテキスタイル）
2） Pasha パターングローブ ボックス（ブラック／ダークシルバーのテキスタイル）
3） Heritage Designインストゥルメント クラスターおよびSport Chronoストップウォッチ（Sport Chronoパッケージ装着時）
4） ダッシュボード トリムにシルバー仕上げの911ロゴ
5） アニメーション付きのIcons of Coolロゴを投影するLEDドア プロジェクター

911 Targa 4 GTS（WLTP） 燃料消費量（複合）：10.9 – 10.7リットル/100 km CO_2排出量（複合）：248 – 242 g/km CO_2クラス：G 2024年4月時点







さりげないハイライトとして、ヘッドレストにエンボス加工されたPorsche クレストと、ストレージ コンパートメントリッドにエンボス加工されたPorsche Exclusive Manufakturのロゴが、さらに上質な印象を与えます。ドア パネルとセンター コンソールに施されたブラックのアクセント ストリップ、そしてダッシュボードに施されたダーク シルバーのペイントが、このパッケージのエレガントなカラーコンセプトを際立たせています。すべてのHeritage Design Packageと同様に、Heritage Design Package Pashaも細部にまでこだわってデザインされ、Porsche Exclusive Manufakturの卓越したクラフトマンシップによって仕上げられています。世界にとっても、そしてPorscheにとっても特別だった、創造性と進歩に満ちたあの時代を、スタイリッシュに体感するためのパッケージです。

1) ストレージ コンパートメントリッドにエンボス加工された‘PORSCHE Exclusive Manufaktur’ロゴ‘
2) ヘッドレストにエンボス加工されたPorsche クレスト
3) Pasha（パシャ）パターンとエンボス加工が施されたブラック レザーのボード ブリーフ ケース、およびHeritage Design仕様のフロア マット

911 Targa 4 GTS（WLTP） 燃料消費量（複合）：10.9 – 10.7リットル/100 km CO_2排出量（複合）：248 – 242 g/km CO_2クラス：G 2024年4月時点

Individual spirit since the 70s: Porsche Sonderwunsch.

911 Spirit 70と同じく、Porsche Sonderwunsch（スペシャル リクエスト）プログラムも、その起源は1970年代にあります。個々のPorscheファンの夢を叶えるために生まれた、特別な部門です。1978年以降、Sonderwunsch部門は主にエンジンおよびシャシー チューニングの分野で、数々のエクスクルーシブな車両を開発してきました。

そして、1980年代になると、チューニング ブームに乗る形でカスタマイズという新たなサービスが加わります。パワーキットの装着やローダウン仕様の製作といった定番のリクエストに加え、インテリアやエクステリアのビジュアルをカスタマイズしたいというお客様の要望も増えていくのです。レザー、ウッド、ハイファイオーディオの人気が高まり、さらに幅広のサイド スカートや、フロント リア用のスポイラーなど、存在感を際立たせるカスタマイズにも注目が集まりました。そのニーズは、瞬く間に世界中へ広がっていったのです。

あなたが見る夢を、我々が形にします

2021年、新たに再始動したSonderwunsch（スペシャル リクエスト）プログラムは、細部にわたる拘りと、精密なクラフトマンシップによって、お客様一人ひとりの夢をかたちにしています。進化したプログラムは、大きく3つのカテゴリーで構成されています。生産工程の中でカラーやマテリアルのカスタマイズに応えるFactory Commissioning。納車後に改めてカスタマイズをオーダーできるFactory Re-Commissioning。そして、世界に一台だけの車両を製作するFactory One-Off。もちろん、911 Spirit 70も例外ではありません。納車前はもちろん、走行を重ねた後であっても、お客様のこだわりを反映したデザインや装備によって、思いのままにカスタマイズすることが可能です。

Sonderwunsch（スペシャル リクエスト）プログラムの詳細は、
www.porsche.com/sonderwunsch
にてご覧いただけます。



燃料消費量、CO_2排出量およびCO_2クラスの詳細については、88ページに記載しております。



Icons of Cool on the way to the 80s.

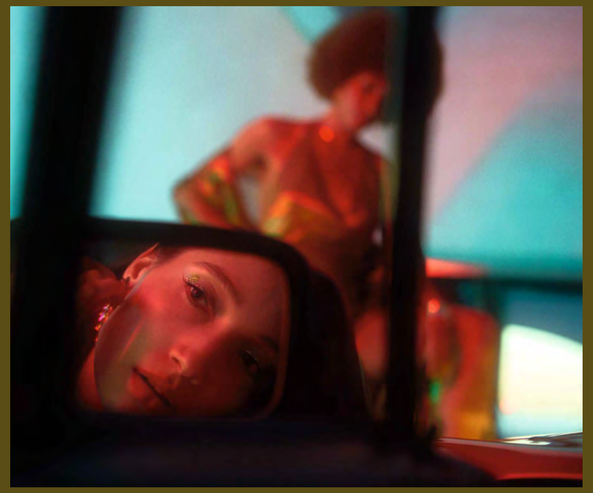
次々と巻き起こる熱狂。911 Targa 4S Heritage Design Edition、911 Sport Classic、そして911 Spirit 70。これらのモデルは、ある特別な時代と、その時代の象徴となった伝説の911への限りない情熱によって、Porscheファンの心を揺さぶりました。次なる章では、私たちはもうひとつのアイコニックな時代へと踏み出します。主役は、70年代のファッションではありません。舞台は1980年代へ。70年代に勝るとも劣らない魅力と伝説が詰まった911の新たな記憶が、そこに待っています。

燃料消費量、CO_2排出量およびCO_2クラスの詳細については、88ページに記載しております。


RECORDS



燃料消費量、CO_2排出量およびCO_2クラスの詳細については、88ページに記載しております。
















S GO 9113H

© Dr. Ing. h.c. F. Porsche AG, 2025

Any reproduction, duplication or other use is prohibited without the prior written consent of Dr. Ing. h.c. F. Porsche AG.

Porsche, the Porsche Crest, 911, Carrera, 718, Boxster, Cayman, Cayenne, Macan, Panamera, Taycan, PDK, PCM and other marks are registered trademarks of Dr. Ing. h.c. F. Porsche AG.

Dr. Ing. h.c. F. Porsche AG
Porscheplatz 1
70435 Stuttgart
Germany
www.porsche.com

Valid from: 04/2025

WSLC25001270 JP/WW